

セッション2 性能評価・症例報告

08. 血流量に対する適切な穿刺針の選択

○松戸 伶美 (マツドミ)、原嶋 美幸、天野 雄介、菊地 勘
医療法人社団豊済会下落合クリニック

【はじめに】 バスキュラーアクセス (VA) の血流量が十分でも、穿刺針のゲージ (G) 数の選択で実血流量 (RQB) が規定される。このため、目標とする透析効率を維持するには、指示血流量 (QB) にあった G 数の選択が重要となる。

【目的】 選択している穿刺針の G 数が QB に対して適切であるかを確認することと、各 G 数によりどこまでの QB が確保できるのかを検討することとした。

【対象】 当院で維持透析中の VA トラブルのない患者 101 名とした。

【方法】 全体対象患者に HD-03 を用いて RQB の測定を行った。当院での G 数の選択は 200mL/min 未満に 17G、200mL/min 以上に 16G、240mL/min 以上に 15G であり、各 G で RQB が確保できているか確認した。また、各 G 数で選択基準より高 QB での治療を一時的に行い、確保できる RQB の上限を確認した。

【結果】 QB と RQB の相関は $r=0.95$ 、 $P<0.01$ だった。脱血不良とされる QB/RQB 乖離率 10% 時の QB は 17G : 250mL/min、16G : 320mL/min、15G : 380mL/min だったが、当院の使用区分ではどの G 数も乖離率 2% 以下となった。

【考察】 QB と RQB に強い正の相関を認めた事、また QB/RQB 乖離率がどの G 数でも 2% 以下だった事から、当院での G 数の選択基準は RQB を確保できている事が確認できた。

【まとめ】 治療効率を適正に維持するため、QB に合った G 数の穿刺針を選択することが重要である。